

公益社団法人 日本水産学会
令和2年度第6回理事会議事録

1 開催された日時 令和2年11月28日(土)12時58分～16時35分

2 開催された場所 日本水産学会事務局(東京都港区港南4-5-7)

3 理事総数及び定足数 総数17名, 定足数9名

4 出席理事総数 15名

(Web会議システムによる出席)

金子豊二, 吉崎悟朗, 潮 秀樹, 八木信行, 廣野育生, 山下 洋, 中田 薫,
佐野元彦, 木村暢夫, 落合芳博, 小島隆人, 平塚聖一, 澤山茂樹, 野田幹雄,
大嶋雄治

5 出席監事

(Web会議システムによる出席)

杉田治男, 舞田正志, 野澤知世

6 出席幹事

(Web会議システムによる出席)

坂本 崇, 二羽恭介, 小山寛喜, 澤山英太郎, 甘糟和男, 長阪玲子

7 出席オブザーバー

(Web会議システムによる出席)

東海 正(決議事項に入る前13時53分に退席)

8 議 案

決議事項

第1号議案「令和3年度定時社員総会の開催日程」の件

第2号議案「会費免除承認」の件

第3号議案「令和2年度日本水産学会各賞受賞者の決定」の件

第4号議案「テレワーク勤務規程の新設」の件

第5号議案「職員就業規程の一部改正」の件

第6号議案「職員給与規程の一部改正」の件

第7号議案「職員育児・介護休業規程の一部改正」の件

第8号議案「短時間勤務有期雇用職員就業規程の一部改正」の件

第9号議案「学会賞選考委員会運営規程及び学会賞選考委員会内規の一部改正」の件

第10号議案「日本学術会議第25期新規会員任命に関する要望書を支持する声明」の件

第11号議案「理事会特別シンポジウム開催」の件

第12号議案「Fisheries Science 87巻における会員販売促進の継続」の件

第13号議案「日本水産学会誌87巻における会員販売促進の継続」の件

第14号議案「2021年度日本農学賞受賞候補者の推薦」の件

第15号議案「令和3年度日本農学会運営委員の選出」の件

第16号議案「協賛」の件

第17号議案「入会承認」の件

報告事項 ① 第4回理事会以降の職務遂行の状況

② その他確認事項

9 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

金子会長が定足数の充足及び Web 会議用装置からなる Web 会議システムにより、出席者の音声、映像が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認した。続いて本会議の議事進行について説明があった。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき、金子会長が議長となり、本会議の成立及び Web 会議システムを用いて開催する旨宣言し、議案の審議に移った。

決議事項に入る前に、令和 3 年度春季大会のオンラインの開催方法について、東海大会委員長から説明がなされた。

- 1) 本年度は初めて Zoom によるオンライン開催を行うため、経費等も予想しにくいことから大会参加費は従来と同額にする。なお、学生の当日参加費のみ、学生が参加しやすいよう 4500 円に値下げする。
- 2) 講演要旨集の冊子体を廃止する。
- 3) 大会開催中に学会授賞式は行わず、受賞者講演の前に座長が受賞者の告知と紹介をする方向で検討する。また、昨年度中止になった受賞講演も本大会中に実施する。
- 4) 一般ポスター発表は上限 100 件（先着順）、高校生のポスター発表も件数を制限する。シンポジウム等の参加者は上限 500 人とし、無料で参加できるシンポジウムと講演会は ID なしで参加できるようにする。なお、水産増殖懇話会の講演会については、事前登録したうえで参加するよう検討する。
- 5) 講演要旨は、「目的、材料と方法、結果」の順に従前どおり記述することにするが、発表内容によっては構成を変更してもよいことにする。

(決議事項)

第 1 号議案「令和 3 年度定時社員総会の開催日程」の件

吉崎総務担当理事から令和 3 年度春季大会がオンライン開催されること、また例年総会までの事務手続きの期間が短かったことから、令和 3 年度総会の開催日程を 5 月 10 日 17 時からとする原案について説明があった。委任状については紙媒体に加えオンラインによる方法、総会資料も今後可能であればオンライン配布することも検討されている。審議の結果、総会の開催日程について、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第 2 号議案「会費免除承認」の件

吉崎総務担当理事から、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第 3 号議案「令和 2 年度日本水産学会各賞受賞者の決定」の件

山下学会賞担当理事から、平成 2 年度日本水産学会各賞の受賞者候補者について原案の説明があった。本件について、以下の質疑があった。

金子会長「本年度の推薦者数は例年に比べて少なかったのか？」

山下理事「推薦者数は少なかったが従来の基準を維持して候補者を選定している。」

審議の結果、各賞受賞者の決定について、出席理事全員一致で以下の通り可決した。なお、各賞選考の総評と選考経緯の文章について各理事による確認の時間を設け、文言等について一部修正することになった。

日本水産学会賞

荒井克俊 「魚介類の染色体操作とその育種応用に関する研究」

マーシー・ニコル・ワイルダー 「有用エビ類の生殖・脱皮・浸透圧調節に関する生理生化学的研究と新養殖技術開発への展開」

日本水産学会功績賞

該当者なし

水産学進歩賞

河野智哉 「魚類サイトカインによる自然免疫応答の概日リズム制御に関する研究」

外丸裕司 「ウイルス学的視点に基づいた植物プランクトンの生態学的研究」

富山 毅 「沿岸性魚類の摂食生態と成長特性に関する研究」

水産学奨励賞

大賀浩史 「魚類の性成熟におけるキスペプチンの機能に関する研究」

識名信也 「イシサンゴの配偶子形成に関する研究」

古川史也 「魚類鰓のカリウム・セシウム排出機構の発見と水生動物発生過程の代謝に関する研究」

水産学技術賞

内田基晴 「海藻の発酵技術の開発と商品化」

團 重樹 「マダコ幼生の行動特性に基づいた種苗生産技術の開発」

吉富文司 「マイクロ波による魚肉ねり製品の連続加熱成形技術の開発」

第4号議案「テレワーク勤務規程の新設」の件（別紙1）

吉崎総務担当理事から、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第5号議案「職員就業規程の一部改正」の件（別紙2）

吉崎総務担当理事から、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第6号議案「職員給与規程の一部改正」の件（別紙3）

吉崎総務担当理事から、原案について説明があった。本件について以下の質疑があった。

八木理事「別表2の4については、テレワーク実施期間に限ってのことが分かるよう明記したほうがよい。」

吉崎理事「そのように修正する。」

審議の結果、出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第7号議案「職員育児・介護休業規程の一部改正」の件（別紙4）

吉崎総務担当理事から、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第8号議案「短時間勤務有期雇用職員就業規程の一部改正」の件（別紙5）

吉崎総務担当理事から、原案について説明があった。本件について以下の質疑があった。

事務局「第21条の在宅勤務日数をテレワーク日数に変更してもらいたい。」

吉崎理事「そのように変更する。」

審議の結果、原案を一部修正のうえ出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第 9 号議案「学会賞選考委員会運営規程及び学会賞選考委員会内規の一部改正」の件（別紙 6）

吉崎総務担当理事から、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第 10 号議案「日本学術会議第 25 期新規会員任命に関する要望書を支持する声明」の件

金子会長から、原案について説明があった。本件について以下の質疑があった。

八木理事「本件については事前に水産政策委員会担当理事として水産政策委員会での検討を依頼した、そして水産政策委員会の検討結果は「表明を理事会で行うことに概ね賛成」とのことであった。なお、声明のタイトルまでは水産政策委員会で議論はなされていないが、個人的な意見として「任命拒否」と述べている部分は強すぎるので削除した方がよいと考える。」

金子会長「ホームページに、理事会として掲載する文章としての是非を御審議願いたい。」

中田理事「タイトルは残して、任命については残してはどうか？」

八木理事「その方がよい。」

舞田監事「予め、なぜこの文章を出すのか、説明も必要ではないか？」

金子会長「会員には様々な意見もあるため、理事会名としている。」

舞田監事「理事会で承認されると、学会の総意と受け取る人もいるのでは？」

大嶋理事「理事一同ではどうか？」

吉崎理事「理事一同であれば舞田監事の懸念も回避できるのでは？」

舞田監事「それであればよい」

八木理事「本文中の理事一同にした方がよい。」

澤山理事「理事一同となれば、理事全てが賛同したことにならないか？」

八木理事「それでは理事会有志にしてはどうか？」

杉田監事「文章中も私たちは、の方がよいのでは？」

金子会長「その方がよい。」

吉崎理事「時期も重要になるので早く載せた方がよい。杉田監事の提案のように、本文中は私たちとし、理事会有志にしては？」

金子会長「タイトルは日本学術会議新規会員の任命についてとし、本文中は私たちとし、理事会有志として出す。」

審議の結果、原案を一部修正のうえ出席理事全員一致で可決した。

第 11 号議案「理事会特別シンポジウム開催」の件

落合担当理事から、東日本大震災復興支援検討特別委員会が 10 年を区切りに今年度に解散するにあたり、最終年度にシンポジウムを理事会主催で開催したいとの説明があった。八木理事からも、水産政策委員会のメンバーも複数参加しているため水産政策委員会も共催できればとの説明があった。審議の結果、出席者全員一致で原案のとおり可決した。

第 12 号議案 「Fisheries Science 87 巻における会員販売促進の継続」の件

吉崎総務担当理事から、Fisheries Science 87 巻における会員販売促進の継続について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第 13 号議案 「日本水産学会誌 87 巻における会員販売促進の継続」の件

吉崎総務担当理事から、日本水産学会誌 87 巻における会員販売促進の継続について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

第 14 号議案「2021 年度日本農学賞受賞候補者の推薦」の件

山下学会賞担当理事より、2021 年度日本農学賞受賞候補者の推薦について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

第 15 号議案「令和 3 年度日本農学会運営委員の選出」の件

吉崎総務担当理事から、令和 3 年度日本農学会運営委員の選出について原案の説明があった。

審議の結果、出席理事全員一致で以下のとおり可決した。

[選出] 渡邊壮一（東大院農）

第 16 号議案「協賛」の件

吉崎総務担当理事から、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

① Underwater Technology 2021 Online -Underwater Video Competition (UT21Online)

主 催	IEEE OES 日本支部，東京大学生産技術研究所，東京大学地震研究所
協 賛	海洋研究開発機構 他 17 団体
日 程	令和 3 年 3 月 2 日
場 所	オンライン開催
希 望	協賛
負担金	なし

第 17 号議案「入会承認」の件-

吉崎総務担当理事から、原案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案のとおり可決した。

(報告事項)

① 第 5 回理事会以降の職務執行状況

・会長

金子会長から、次の報告があった。

- 1) 12 月 2 日に開催される水産・海洋科学研究連絡協議会に参加する予定であり、本協議会でも日本学術会議の問題が取り上げられる。
- 2) 11 月上旬にオンライン開催された韓国水産科学会でビデオ挨拶を行った。
- 3) 12 月 5 日に開催される「海とさかな」自由研究・作品コンクールの表彰式に出席する。
- 4) 11 月 27 日に日本農学進歩賞の授賞式に参加し、壁谷会員の受賞講演を聞いた。

・庶務関係

吉崎担当理事から次の報告があった。

- 1) 資格喪失者（会費未納）のうち会費を納入した以下の者を退会へ変更した。
鈴木 允（正会員，令和元年度資格喪失）
栗原晴子（正会員，平成 29 年度資格喪失）
- 2) 学会事務職員の期末手当について
- 3) 協賛について

共催，協賛，後援の取り扱い申し合わせ 3)を適用した。

① 海洋調査技術学会第 32 回研究成果発表会

主 催 海洋調査技術学会
協 賛 海中海底工学フォーラム・ZERO 他 19 学協会
日 程 令和 2 年 11 月 5 日・6 日
場 所 オンライン開催
希 望 協賛
負担金 なし

② 第 58 回アイソトープ・放射線研究発表会

主 催 日本アイソトープ協会
協賛・後援 応用物理学会 他 63 学協会
日 程 令和 3 年 7 月頃
場 所 オンライン開催
希 望 協賛
負担金 なし

・企画広報関係

廣野担当理事から，11 月 4 日に第 5 回委員会がオンライン開催されたとの報告があった。

・財務関係

八木担当理事，特になし。

・編集関係

潮担当理事から，論文賞の推薦を 2 月の理事会で承認が得られるよう進めているとの報告があった。

・学会賞関係

山下担当理事から，次の報告があった。

1) 学会賞選考委員会が 9 月 15 日に開催され，副委員長に長崎大学の征矢野会員が選出された。

2) 東京海洋大学の壁谷尚樹氏が日本農学進歩賞を受賞することが決定された。

3) 学会賞の推薦資料として，候補者の代表的な業績 10 編を PDF で提出してもらうよう検討している。この件について，つぎの質疑があった。

金子会長「学会賞の推薦様式も印鑑なしで PDF にしてはどうか？」

山下理事「不正等ないように引き続き紙媒体で行う。」

4) 日本学術振興会賞の候補者も学会賞選考委員会で検討できるよう次回の理事会で審議にかける。この件について，つぎの質疑があった。

潮 理事「学会と大学の両者から推薦書が上がってくるケースもあると思うが，全く同じ文章は避けた方がよい。」

山下理事「承知した。」

・シンポジウム関連

落合担当理事から，新規のシンポジウム申請が 2 件あった。令和 2 年度春季大会で開催予定であったシンポジウム 1 件とミニシンポジウム 1 件について開催を検討しているとの報告があった。

- ・ 出版関係

大嶋担当理事から、e-水産学シリーズ第1巻が刊行され、第2巻も来年3月刊行に向けて順調に進んでおり、続巻の提案があれば申し出てもらいたいとの報告があった。この件について、つぎの質疑があった。

金子会長「e-水産学シリーズもシンポジウムで開催したものを出版化していくのか？」

吉崎理事「シンポジウムの講演を軸にするが、演者以外も加わり幅広の内容にする方針であったと記憶している。」

- ・ 水産技術誌監修関係

中田担当理事から、次の報告があった。

- 1) 10月下旬に水産技術企画委員会をメール開催し、論文5編の修正が済めば掲載可となっており、今年度中に刊行する予定である。
- 2) それ以降の進行については、1編が査読終了、6編が査読中、2編が受付審査中であり、5編の査読が終了すれば企画委員会で審議する予定である。

- ・ 国際交流関係

中田担当理事から、次の報告があった。

- 1) 来年度の春季大会で国際セッションをリアルタイムで実施し、招待講演は設けない。
- 2) 5月の総会時に外国の出席者をどうすべきか審議できればと考えている。

金子会長「来年度の春季大会と総会では外国の出席者を呼ばないのでは？」

中田理事「そうなると思う。」

金子会長「改めて検討したいと思う。」

- ・ 水産教育関係

山下担当理事から、来年度の春季大会に予定していたシンポジウムは春季大会がweb開催となったため延期するとの報告があった。

- ・ 水産政策関係

八木担当理事から、東日本大震災復興支援に関するシンポジウムに共催することと、日本学術会議の件についてメール審議を行ったとの報告があった。

- ・ 漁業・資源管理関係

平塚担当理事から、漁業懇話会委員会から今年度延期した講演会を来年度の春季大会で開催することと、毎年春季大会で若手の会員に漁業懇話会奨励賞を授与していたが、今年度のみ春季大会が開催されなかったため推薦なしにしたい、との報告があった。

- ・ 水産利用関係

金子会長から、12月中にオンラインで委員会を開催する予定との報告があった。

- ・ 水産増殖関係

佐野担当理事から、次の報告があった。

- 1) 先月メール審議を行い、来年度の春季大会ではオンラインによる講演会を企画したい。
- 2) 講演会の開催にあたっては、セキュリティ上の問題から事前登録制で開催したい。

- ・ 水圏環境関係

澤山担当理事から、第2回の水産環境保全委員会において、令和3年度春季大会のシンポジウム及び秋季大会の研究会について、12月3日を締め切りとしてメール審議を行っているとの報告があった。

- ・ 男女共同参画関係

中田担当理事から、第18期の協議会シンポジウムが10月17日に開催され、第19期幹事会は日本技術士会が担当するとの報告があった。

・水産学若手の会関係

潮担当理事から、若手に対して公設研究所や企業を紹介するシンポジウムを企画したいとの報告があった。

・社会連携関係

金子会長 特になし。

・将来計画関係

中田担当理事から、今年3月に日本水産学会将来検討レポートが出されたが、その提言を踏まえて、若手会員の加入促進、ITを使った水産学会の活動の効率化、について議論していきたいとの報告があった。

・北海道支部、地域連携関係

木村担当理事から、次の報告があった。

1) 12月5日に支部大会をオンライン方式で開催する。

2) 来年度秋季大会は、今後の動向次第だが対面開催の方向で進めている。

・東北支部、地域連携関係

落合担当理事から、10月10日に支部大会をオンライン方式で開催したとの報告があった。

・関東支部、地域連携関係

小島担当理事から、来年度の春季大会がオンライン開催に向けて準備が進められているとの報告があった。

・中部支部、地域連携関係

平塚担当理事から、10月に幹事会をメール方式で開催した結果、今年度の支部大会は見送ることになったとの報告があった。

・近畿支部、地域連携関係

澤山担当理事から、11月29日に幹事会と例会をzoomで開催し、9件の研究発表が予定されているとの報告があった。

・中国・四国支部、地域連携関係

野田担当理事から、例会を令和3年1月23日と24日に開催し、口頭発表、ポスター発表、高校生のポスター発表をいずれもオンデマンド方式で行うとの報告があった。

・九州支部、地域連携関係

大嶋担当理事から、令和3年1月9日に支部大会と総会を開催し、ポスター発表と高校生の発表は行わず、研究発表のみオンラインで開催するとの報告があった。

・英文書籍監修委員会（特別委員会）

金子会長から、英文書籍はまだ3冊のみの出版のため、各理事に対して続刊が出版されるよう協力を要請された。

・東日本大震災災害復興支援検討委員会（特別委員会）

落合担当理事から、先に説明したシンポジウムの件のみであるとの報告があった。

・財務検討委員会（特別委員会）

八木担当理事 特になし。

② その他確認事項

(1) 事業計画・予算書及び事業報告・決算報告の提出日程

吉崎総務担当理事から、事業計画・予算書及び事業報告・決算報告の作成について日程説明があり、締め切りを厳守するよう要請があった。なお、総会が例年より遅く開催されるため、提出日程が決まり次第連絡するとの発言があった。

(2) 令和2年度理事会開催日程

吉崎総務担当理事から、次回理事会の開催を令和3年2月6日13時から開催するとの説明があった。

以上をもって Web 会議システムを用いた会議は、終始異状なく議案の審議等を終了したので、16時35分、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長（代表理事）及び監事は記名押印する。

令和2年11月28日

公益社団法人 日本水産学会

議長 会長（代表理事）

監 事

監 事

監 事